

## 《丹後・地域高規格道路推進協議会臨時総会》概要版

【開催日時】令和4年9月30日（金）午後3時00分～午後3時45分

【開催場所】峰山地域公民館 大会議室（京丹後市峰山町）

【次第】1 開会 2 会長挨拶 3 要望に対する回答 4 意見交換 5 閉会

### 京都府からの報告概要

先月の定期総会では令和10年代に山陰近畿道の全線供用など、非常に真摯で熱い要望をいただいた。

人口減少が進む中、都市機能を維持していくには、人の行動圏域を広げたり、企業を誘致したりすることが必要。道路はその骨格になるため、1年でも早期に全線開通した方が良いという事は理解している。

#### <京都府の状況>

京都府内ではまだ30数km、兵庫県まで含めるとミッシングリンクが解消するまで計約50数km残っている。

現在建設中の区間と同じ規格として1kmあたり30数億円かかる実績だが、京都府内区間だけでも1,000億円以上必要。府内の他地域の建設の他、道路の維持管理や直轄負担金などの義務的な経費も払いながら、令和10年代に山陰近畿道全線を建設することは、府の財政事情を考えるとできないため、国に支援をお願いしていくしかない。

#### <国の状況>

国の道路事業の予算は一定であるので、維持管理費が増加し、新しく道路を作れる予算が減ってきているという状況となっている。

そうした中、国の審議会において、維持管理や老朽化対策、4車線化や未整備区間の整備などをしながら、将来にわたって高速道路を使えるようにしていく仕組みの検討がされている。

審議会は、維持管理、更新、強化等の費用を確保することは必然であり、最大の受益者である利用者に負担いただく方向の中間答申を去年の夏に出した。

国土交通省は令和5年度概算要求において「2065年までの料金徴収期間の延長などについて検討した上で所要の措置を講じる」とするなど、中間答申を踏まえた施策を講じてきている。

#### <結論>

現在の京都府の状況を考えると、道路の維持管理費の一部等を利用者に一定の負担をお願いすることが、要望に答えていくための一番の早道ではないかと考えている。

地元の皆さまにご理解をいただきたい。

## 京都府への質疑

Q：利用者の負担の程度についての検討状況は？

A：まだ検討を始めたばかり。従って何も決めていないが、京都府の他地域（＝全国）の水準より低くなるように検討したい。

なお、全国の水準＝NEXCOの料金は、IC利用料＋24.6円/km。

Q：負担が発生するのは全線開通後か、完了した区間から随時か？

A：現在、供用区間は年間2億円程度の維持管理費が生じており、全額府費で賄っている。今後も増え続ける維持管理費の一部を先線の整備に充てさせて頂ければ、その分整備スピードは上がる。しかも府費は、国の直轄代行業費や補助事業の一部として使うと、何倍もの事業規模となる。

Q：NEXCOと京都縦貫道との料金水準について、兵庫県と京都府との比較について

A：現在の京都縦貫道の料金水準は、基本的にはNEXCOと同じ。

高速道路の整備・管理に係る課題とそれに対する認識は全国共通のものである。

## 協議会員からの意見

- ・濱田部長から説明があった諸事情を勘案すると、今日の総会参加者の中では一定の利用者負担は避けて通れないとの共通認識を持っていると思う。
- ・高速道路の速達性や災害時のリダンダンシーの確保などの利便性を鑑みると、受益者負担の意味からしても利用者負担が発生する案を呑んで整備の加速化が必要。
- ・山陰近畿道の利用者・受益者は丹後のみではなく全国に及び。維持管理等に繋がる利用料は一部負担の方向へシフトした上で、早期整備への要望を強くしていくべき。

